
観覧車

斎藤佑祐

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

観覧車

【Nコード】

N8483Z

【作者名】

斎藤佑祐

【あらすじ】

夕方の空に観覧車が一周する

回り始めた観覧車

僕と世界を少し離れた

大切なものは指からこぼれ 残ったのは過去の痕

夕方のオレンジ

温かさに心が痛む

頬をつたう一条の涙は止まるかな

いつだって先立つは後悔

動くたび傷口はひろがった

心は訳もわからず不安を感じていた

回り始めた観覧車

僕と世界は少し離れた

大切だったものの感触も過去の中に消えていく

夕方のオレンジ

優しさに気持ちが揺らぐ

溢れた心は頬をつたった

いつだって思い出す約束

言葉にするたび自分を叱った

耐えきれない夜に感じたのは心の「不在」だった

例えば灰色の空を「憂鬱」と呼んだ

シトシト降る雨に理由を尋ねた

応えなんていらなかった

イメージは自分の内にだけにあった

観覧車が一周する間に

（僕は自分の弱さに心が潰され拙^{つたな}さに迷う）

観覧車が一周する間に

（喪失の重さに心が壊れる）

……それでも

観覧車が一周する間に

これまで諦めてきた道の上に線を描いた

観覧車が地面に着くときは僕と世界がまた出会ったとき

夕方のオレンジ

西の空に消えていく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8483z/>

観覧車

2011年12月26日21時59分発行